

【共通】

◆生育状況について

生育は、昨年より7日程度進んでいる。

◆当面する重点作業について

1. 新梢・徒長枝が伸びているので、適正に整理する。
2. 樹体が日焼けで傷まないように保護する（新梢を置く・ワラを巻くなど）
3. 適時にかん水を実施する。降雨が多い場合は、排水対策を実施する。
4. アメリカシロヒトリは巣網のうちに捕殺するか、焼却処理する。
5. 薬剤散布を適期に実施する。

【プルーン・すもも】

◆プルーン早生種・すもも収穫講習会及び出荷目揃い会 ・プルーン3Kバラ荷造講習会の開催について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
7月 6日	月	午前10:00	西部流通センター	徳武
7月 8日	水	午前10:00	若穂果実流通センター	寺澤

※若穂果実流通センターでは、「雹害課対応」についても実施いたします。

※講習会以降が出荷始めではありません。適熟になったものは、講習会以前でも荷受致します。

荷受開始前でも対応致しますので、各流通センター・共選所までご相談下さい。

また、講習会以降でも、未熟な場合は、適熟になってからご出荷下さい。

※川中島地区・更北地区については果樹技術員までお問い合わせください。

※プルーン3Kバラ出荷申込書は、講習会にて配布いたします。

◆着色難品種の着色向上収穫前管理について

着色難な品種は、しっかりと着色管理（葉摘み・反射シート）を行う。

◆サントス等のしわ果（微裂果）対策について《重要》

サントスやベイラーなどに発生する、「しわ果」は、微細な裂果から、水分が蒸散することによって発生する。このため、対策は通常の裂果対策を実施する事が重要になる。

1. 裂果発生要因：降雨による果面からの雨水の吸収が主要因。この他にも、根からの吸収も影響される。
2. 対策：成熟する1ヶ月前頃より、雨除けを実施する事が最も有効。また、土壌水分の急激な変化は発生を助長するため、定期的なかん水を実施し、適度な状態を保つ。この他にも、樹勢が弱い場合は助長されるため、適樹勢を保つ。排水の悪い園は、空中湿度が高まるなど助長されるため、排水対策をする。干ばつになりやすい園は、かん水を少量多回数で実施するなど対策を実施する。

◆スモモヒメシンクイ防除対策について 《重要》

1. 薬剤防除：定期防除は、散布間隔を守りしっかりと散布ムラなく、量をしっかりと掛ける。
2. 耕種的防除：園内をこまめに巡回し、樹上の被害果・落果した被害果をすべて見つけ処分する。
3. 処分方法
 - 1) 被害果を園外に持ち出し、7日以上水漬けし果実中の幼虫を殺す。
 - 2) 土中に埋める場合は、1m以上深く埋める。浅いと羽化し、再び発生するので注意する。
 - 3) 厚い肥料袋等に被害果を入れ、羽化成虫が外に飛び出さないよう口を固く結ぶ。レジ袋等は不可。
 - 4) 放任園や自家用で、防除しないプルーン・すもも等発生源を伐採してもらう。

4. 被害果の特徴

- 1) アメをだす。
- 2) 果面に地図を描く。
- 3) 果面が黄色や紫色に変色。
- 4) 落果している。

◆ナシヒメコン第2回取り付けについて

スモモヒメシンクイ対策として、7月上中旬が設置時期となりますので、忘れずに設置する。

設置本数：10a当たり50本。

実際散布月日 月 日

◆灰星病対策について

被害果を見かけ次第（降雨の前に）除去し、園外へ持ち出すが土中に埋め、被害果を触った手で他の果実に触れないようにする。

◆第10回薬剤散布について

1. 散布時期：7月1日（水）～5日（日）
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：400ℓ以上

実際散布月日 月 日

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
（展着剤まくびか）	10,000倍	10mℓ	—	—
サムコルフロアブル10	2,500倍	40mℓ	3日	シンクイムシ類
ナリアWDG	2,000倍	50g	前日	灰星病

◆第11回薬剤散布について

1. 散布時期：7月11日（土）～15日（水）
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：400ℓ以上

実際散布月日 月 日

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
（展着剤まくびか）	10,000倍	10mℓ	—	—
（ミギワ20フロアブル）	2,000倍	50mℓ	前日	灰星病
Ⓢ イカズチWDG	1,500倍	66g	前日	シンクイムシ類

◆第10・11回薬剤散布共通留意事項について

3. 散布上の留意事項

- 1) 収穫直前品種は、定期薬剤散布に代えて別記の収穫前薬剤散布を行う。
- 2) 収穫中品種に、薬液が飛散しないよう注意し散布する。
- 3) 「収穫前日」とは収穫する24時間前までに散布が終了していることを意味する。
- 4) 果実の汚れを防ぐため、なるべく細霧にして、すぐに乾く時間帯で散布する。
- 5) 収穫時期に近い場合は、農薬による汚れや果粉溶脱を軽減するため展着剤を使用しないが、シンクイムシ類・灰星病の発生が多く、薬液をしっかりと付着させたい場合は、展着剤を「まくびか」10,000倍を使用すると、均一に付着しやすくなり、乾きが早まる。
- 6) ハダニ類の発生が心配される場合は、第10回にダニゲッターフロアブル2,000倍（水1000ℓ当り50mℓ・収穫前日）を加用散布する。
- 7) 降雨が多い場合は灰星病対策として、第11回にミギワ20フロアブルを加用散布する。
- 8) 第11回、イカズチWDGに代えて、アーデントフロアブル2,000倍（水1000ℓ当り50mℓ・収穫前日）又はアディオンフロアブル1,500倍（水1000ℓ当り66mℓ・収穫前日）を使用してもよい。
- 9) アメリカシロヒトリは巣網のうちに捕殺するか、焼却処理する。

◆収穫前薬剤散布について

1. 散布時期：収穫開始2日前

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	前日	灰星病

3. 散布上の留意事項
 - 1) 「収穫前日」とは、収穫24時間前までに散布が終了している事を意味する。
 - 2) オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 3,000 倍（水 100ℓ当り 33ml・収穫前日）又はアンビルフロアブル 1,000 倍（水 100ℓ当り 100ml・収穫前日）を使用してもよい。

【あんず】

◆ウメシロカイガラムシ・アブラムシ類対策薬剤散布について

1. 散布時期：7月収穫終了直後

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
トップジンM水和剤	1,500倍	66g	21日	胴枯病・黒星病
㊞ダイアジノン水和剤34	1,000倍	100g	21日	ウメシロカイガラムシ・アブラムシ類

【おうとう】

◆夏季せん定について

1. ノコギリを使うような大枝の剪定は、切り口が乾燥する前にトップジンMペーストを塗布する。
2. この時期に行うことにより枯れ込みを防ぎ、花芽の充実を図ることができる。
3. 太い枝を切る場合は幹から30～50cm離して切る。
4. 落とす枝葉は、3割程度とする。それ以上落とすと樹勢低下につながる。

【あんず・うめ・おうとう】

◆礼肥施用について

施用時期	肥料名	施肥量	実際施用日記入
7月(収穫後)	有機専科	10a当り2袋	月 日

※樹勢の中庸～弱めの樹に施用する。（強勢な樹や若木は見合わせる。）

◆コスカシバ対策について

杏の場合は6～10月まではっきりしたコスカシバの最盛期がない。
被害樹は樹勢が弱まったり胴枯病が発生しやすくなる。
樹脂と虫糞の混ざっている箇所を削り補殺するか、木づちで叩いて潰す。（雨上がりが良い）

【なし】

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期：7月7日（火）～11日（土）

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：棚450ℓ以上・立木500ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
カネマイトフロアブル	1,000倍	100ml	前日	ハダニ類
㊞イカズチWDG	1,500倍	66g	前日	シンクイムシ類・カメムシ類
オキシラン水和剤	500倍	200g	21日	黒斑病・輪紋病

3. 散布上の留意事項

- 1) カネマイトフロアブルに代えて、マイトコーネフロアブル1,000倍（水100ℓ当り100ml）を使用してもよい。ただし、高温時の使用は控える。
- 2) イカズチWDGに代えて、アーデントフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50ml）又はアディオンプフロアブル1,500倍（水100ℓ当り66ml）又は㊞ロディー水和剤1,000倍（水100ℓ当り100g）を使用してもよい。
- 3) クワコナカイガラムシ発生園は、コルト顆粒水和剤3,000倍（水100ℓ当り33g）を加用散布する。

◆第10回薬剤散布について

1. 散布時期：7月17日（金）～21日（火）

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：棚450ℓ以上・立木500ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
㊞モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	25g	前日	シンクイムシ類・カメムシ類
キノンドー顆粒水和剤	1,000倍	100g	21日	黒斑病・輪紋病

3. 散布上の留意事項

- 1) モスピラン顆粒水溶剤に代えて、㊞バリアード顆粒水和剤4,000倍（水100ℓ当り25g）を使用してもよい。

◆新梢管理について

1. 日本なしは、新梢伸長が停止した枝から順に、棚面に対して45度くらいに誘引する。特に棚下から発生する新梢は、棚面まで伸びてきた際に小張り線をくぐらせておく。
2. 側枝の基部近くが徒長しやすくなるので、発生した新梢は除去するか4～5cm（展葉4枚）で摘心する。また、伸長が停止した新梢は、斜めに誘引し側枝候補とする。
誘引は6月から7月上旬頃までに実施する。7月中であれば、新梢基部の肥大は抑制され、側枝として利用することができる。
3. 側枝中間部分では、上側から発生した新梢を除去する。
4. 側枝先端は、養分が先端に行くように立ち上げる。
5. 短果枝から発生する新梢は、赤い芽のうちに欠くか、葉4枚を残して摘心する。